

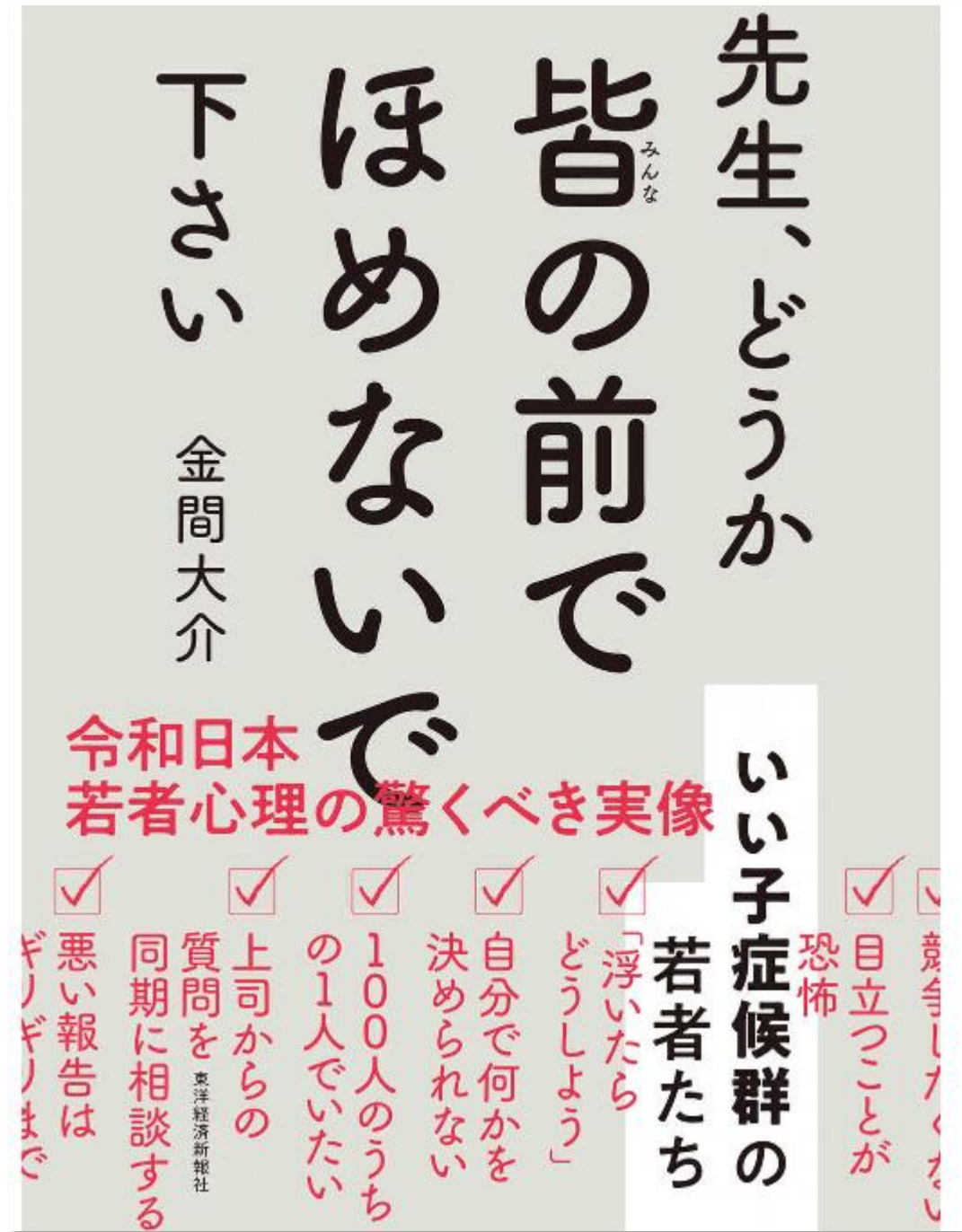
第3回おんらいん読書会

金間大介（かなま・だいすけ）

金沢大学 融合研究域融合科学系 教授

東京大学 未来ビジョン研究センター 客員教授

北海道札幌市生まれ。横浜国立大学大学院工学研究科物理情報工学専攻（博士）、バージニア工科大学大学院、新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）、文部科学省科学技術・学術政策研究所、北海道情報大学経営情報学部准教授、東京農業大学国際食料情報学部准教授、金沢大学人間社会研究域経済学経営学系准教授、2021年より現職。博士号取得までは応用物理学研究室に所属し、表面物性の研究に従事。博士後期課程中にバージニア工科大学大学院へ渡米し、新規開講科目だったイノベーション・マネジメントの分野に魅了され、それ以来イノベーション論、技術経営論、マーケティング論、産学連携等の研究を進める。また「イノベーションのためのモチベーション」研究も遂行しており、教育や人材育成の業界との連携も多数。主な著書に『イノベーションの動機づけ：アントレプレナーシップとチャレンジ精神の源』（丸善出版）、『イノベーション&マーケティングの経済学』（共著、中央経済社）、『モチベーションの科学：知識創造性の高め方』（創成社）など。

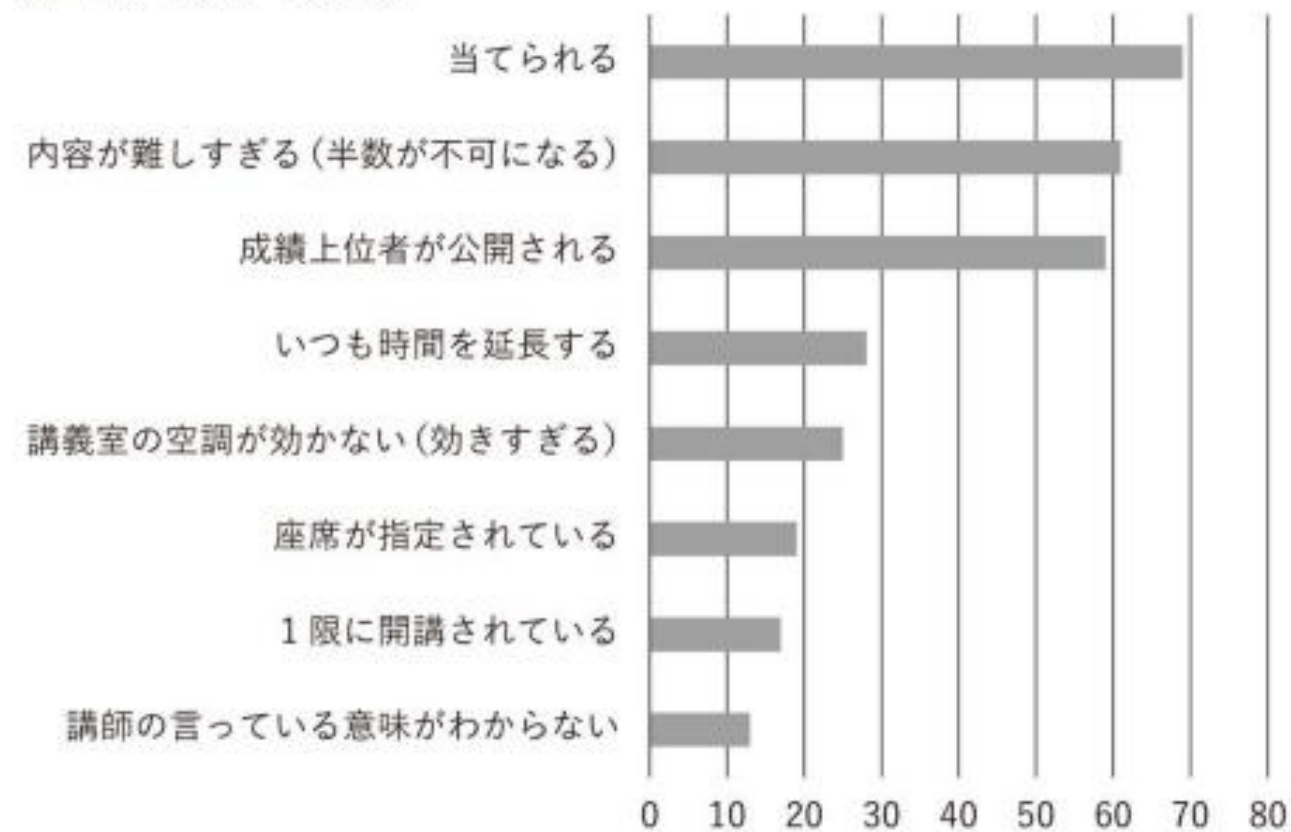


次のうち、現在の大学生が最も嫌だと思う講義はどれか？

- ・ 座席が指定されている
- ・ いつも時間を延長する
- ・ 内容が難しすぎる（半数が不可になる）
- ・ 当てられる
- ・ 講義室の空調が効かない（効きすぎる）
- ・ 講師の言っている意味がわからない
- ・ 成績上位者が公開される
- ・ 1限に開講されている

図表1－1 大学生が選ぶ嫌いな講義ランキング

(N=179：2016～2019年)



「ほめ」は「圧」

筆者は、どちらかというときよく学生をほめるほうだ
ただ、10年ほど前、講義の後のちょっとした流れで学生に怒られたことがある。
それが本章のタイトルでもある「先生、どうか皆の前でほめないで下さい」だった。
ほかにも、皆の前でほめた後、急に発言量が減った学生もいた。これはどういう心理なのか？

1つ目は、自分に自信がないこととのギャップだ。現在の大学生の多くは、自己肯定感が低く、いわゆる能力の面において基本的に自分はダメだと思っている。その心理状態のまま人前でほめられることは、ダメな自分に対する大きなプレッシャーにつながる。つまり、ほめられることはそのまま自分への「圧」となるのだ。この「ほめ」=「圧」という図式は、いい子症候群の大きな特徴なのでぜひ覚えておいてほしい。

2つ目は、ほめられた直後に、それを聞いた他人の中の自分像が変化したり、目立つことに対する抵抗感は絶大だ。それでもなお、人前でほめられ続けるとどんな気持ちになるかと複数の学生に尋ねたところ、「ひたすら帰りたくなる」そうだった。

公正な分配とは？

- ④ 努力に応じた分配
- ③ 実績に応じた分配
- ② 必要性分配
- ① 平等分配

現在の大学生の半数は、単純な一律分配が最も公正だと考えている（競争が嫌い）

2000年全国調査

④	③	②	①
努力に応じた分配…男性51・2%、女性62・2%	実績に応じた分配…男性30・4%、女性16・6%	必要性分配…男性9・8%、女性9・1%	平等分配…男性5・2%、女性7・5%

2020年複数大学調査

④	③	②	①
努力に応じた分配…男性25・5%、女性24・8%	実績に応じた分配…男性19・6%、女性16・5%	必要性分配…男性5・9%、女性5・5%	平等分配…男性49・0%、女性53・2%

2000年アメリカ大学生

④	③	②	①
努力に応じた分配…13・0%	実績に応じた分配…56・5%	必要性分配…29・0%	平等分配…1・4%

ゆとり教育

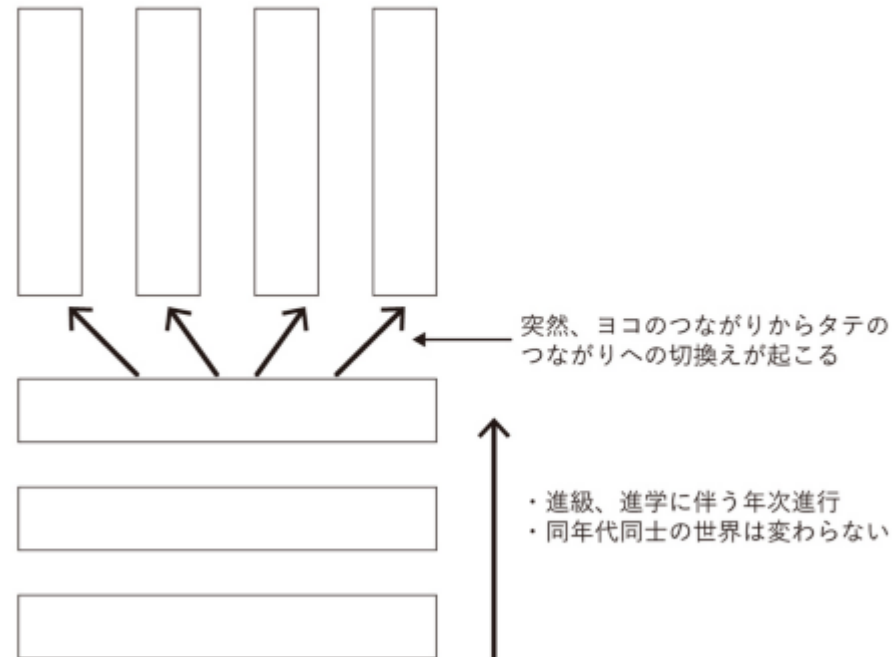
「主体的な経験や体験を重視し、自ら学び考える力を養う」

「他者と歩調を合わせ、力を合わせてともに課題を乗り越える」



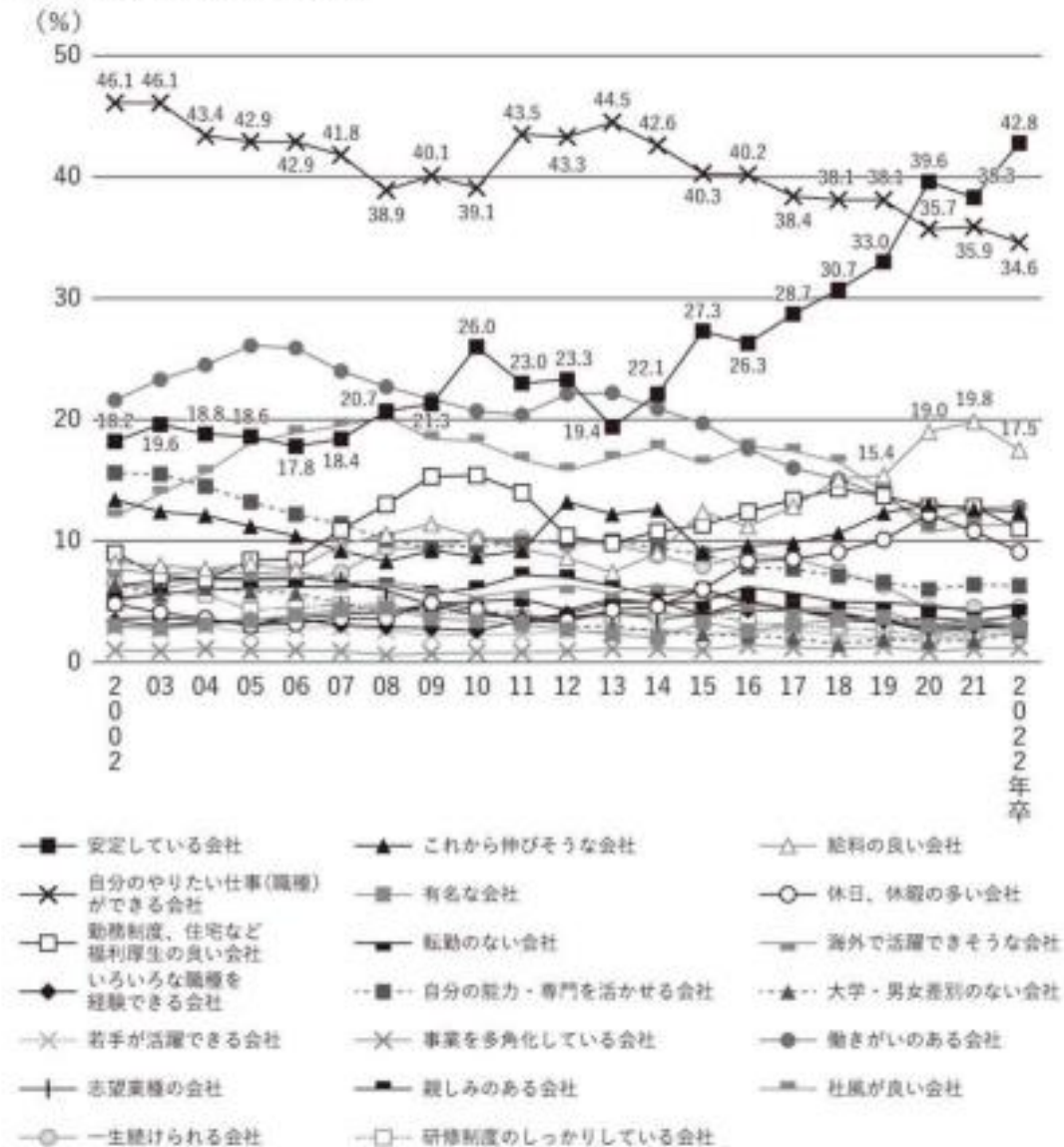
個の主体的な行為を発揮することは、「一体感を持って」「家族のように」課題を乗り越えよう、という感情的な機運を乱し、出し抜くことになる。

図表5-5 ヨコの世界からタテの世界へ



図表5-2 企業を選択する理由（経年変化）

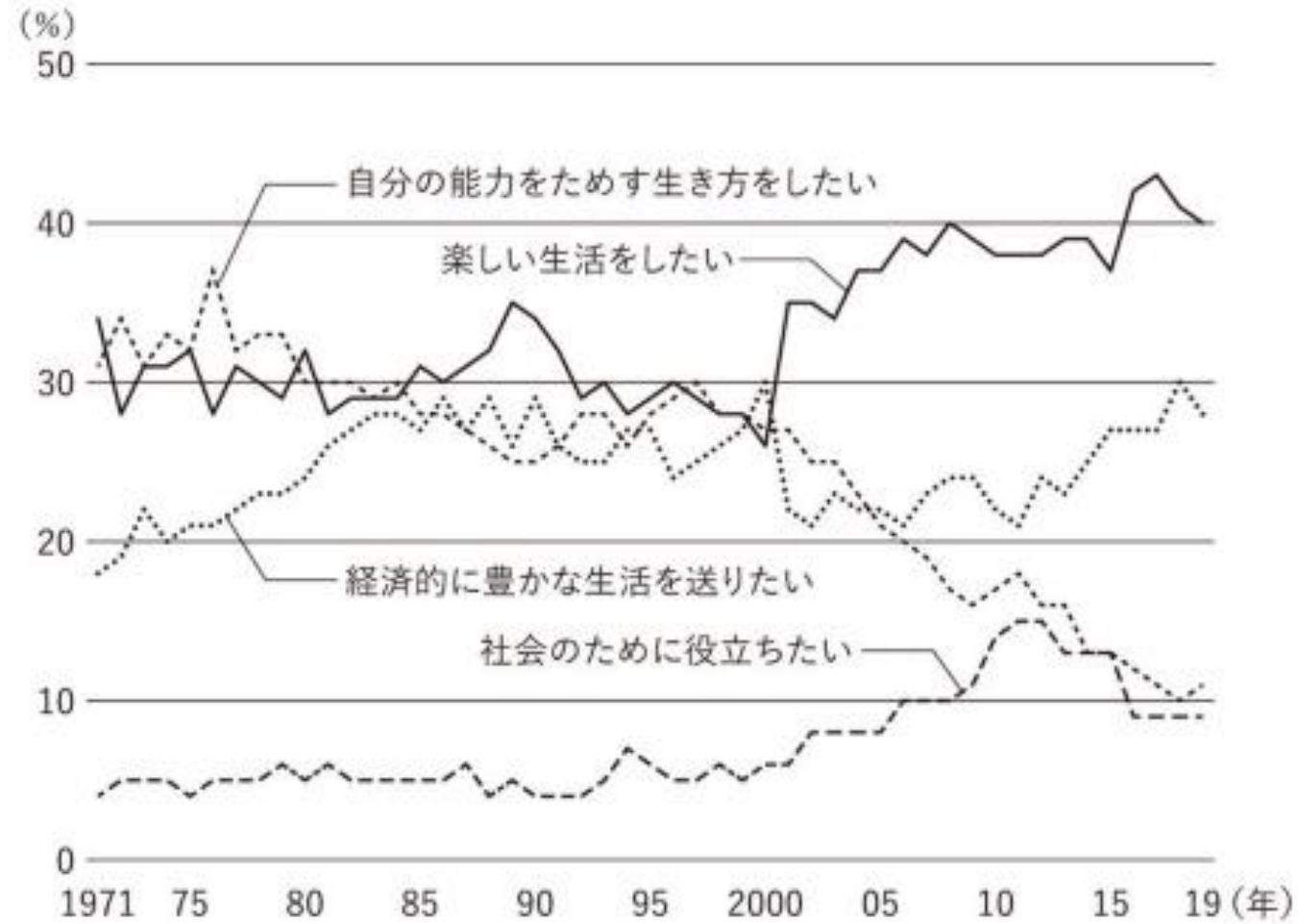
推移（2002年卒～2022年卒）



注：2つを選び回答

出所：マイナビ「マイナビ 2022年卒大学生就職意識調査」(2021)

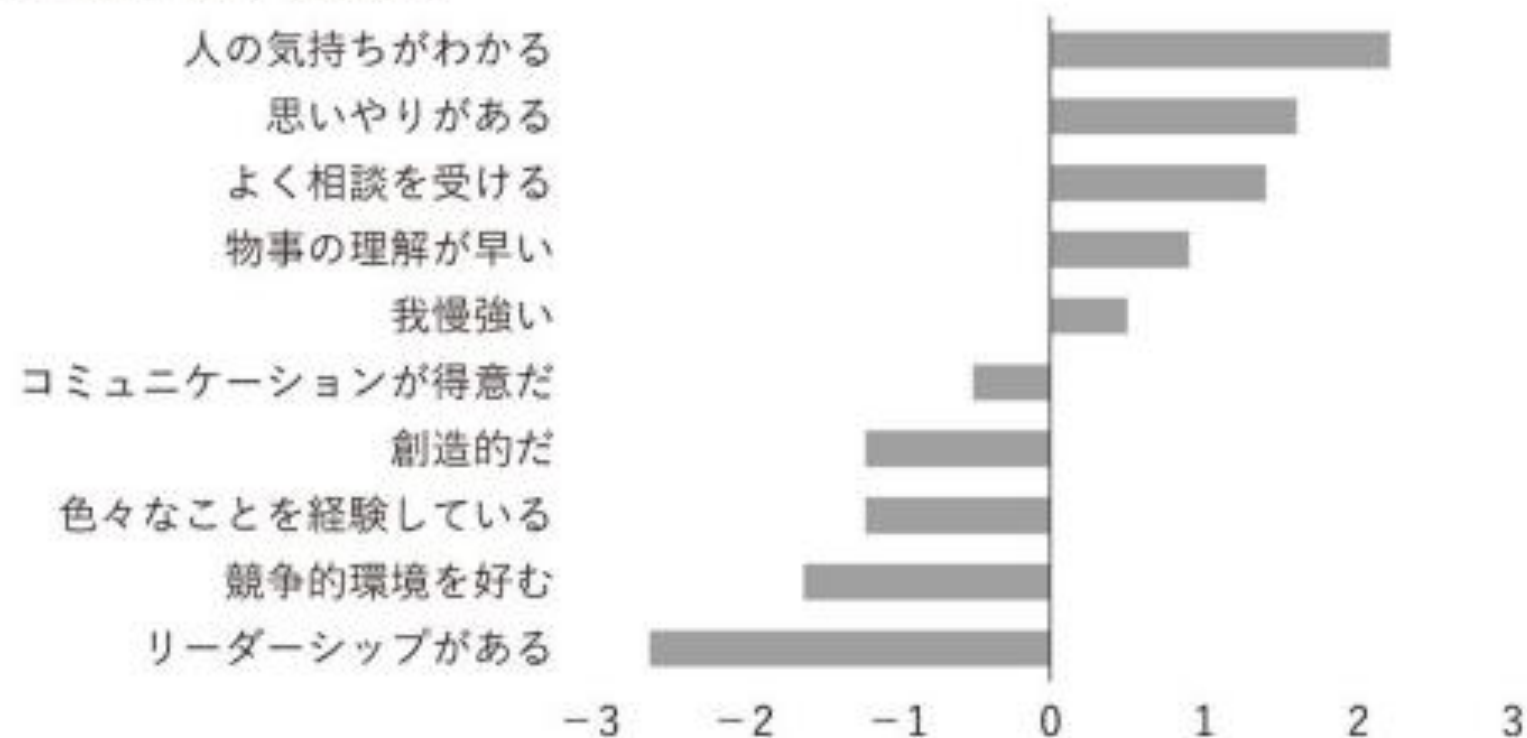
図表6－2 仕事を通してどのような生活を送りたいか



出所：日本生産性本部「新入社員『働くことの意識』調査結果」（2019）

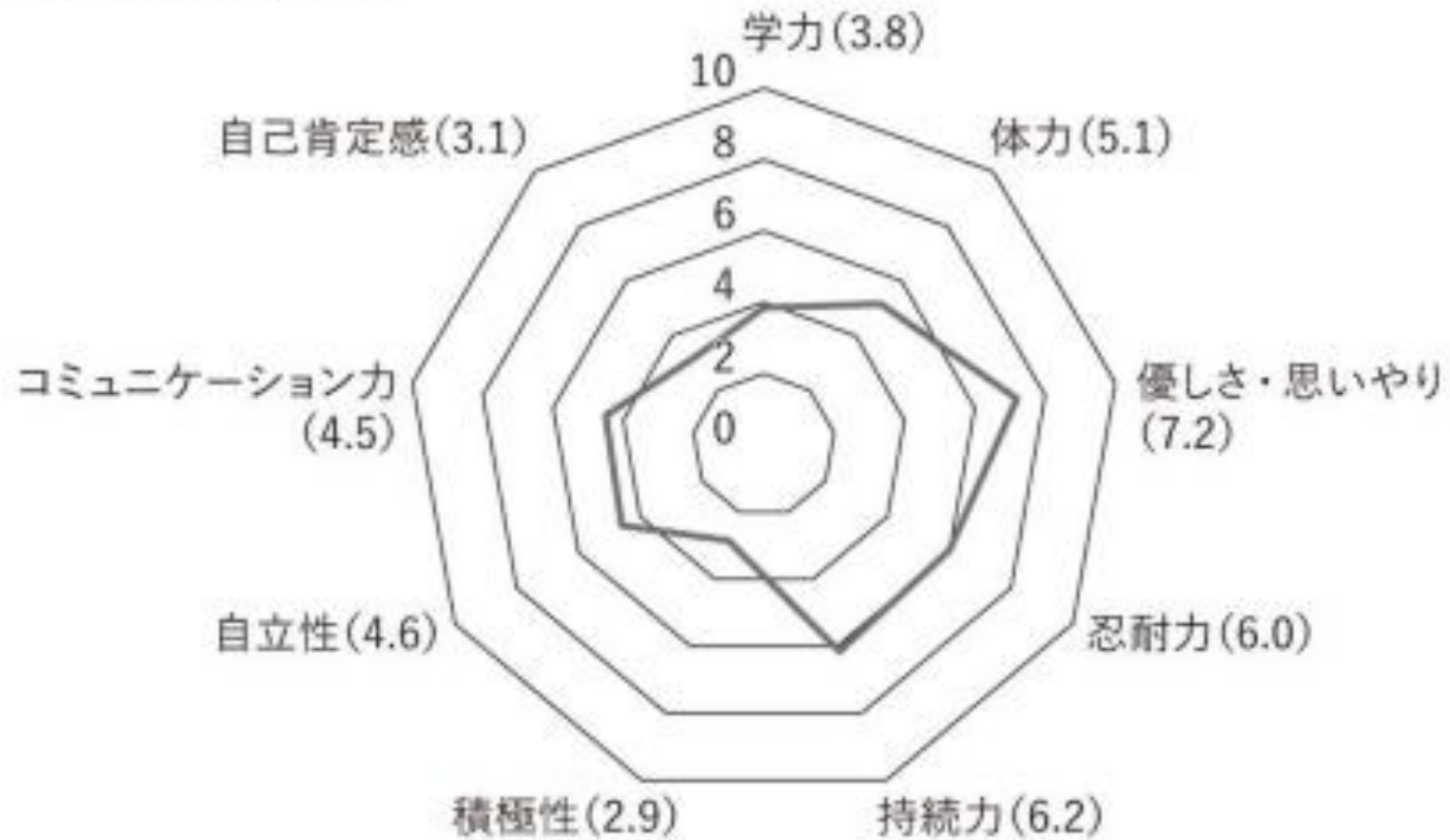
図表6－3 「他人と比較して自分は何点だと思うか？」という問い
に対する大学生の回答結果

(N=99：2015～2019年)

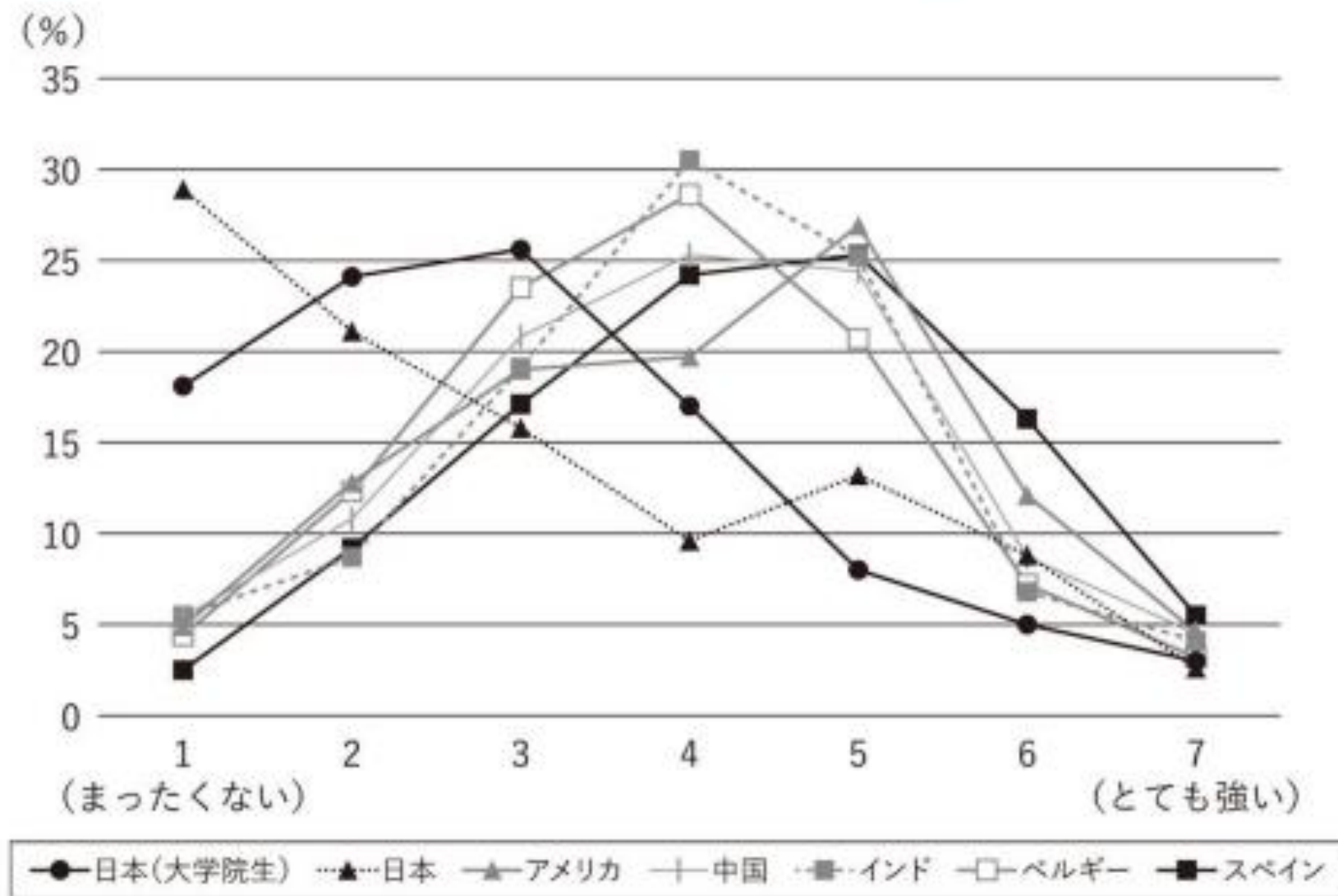


図表7-1 大学生による自己評価結果の平均値

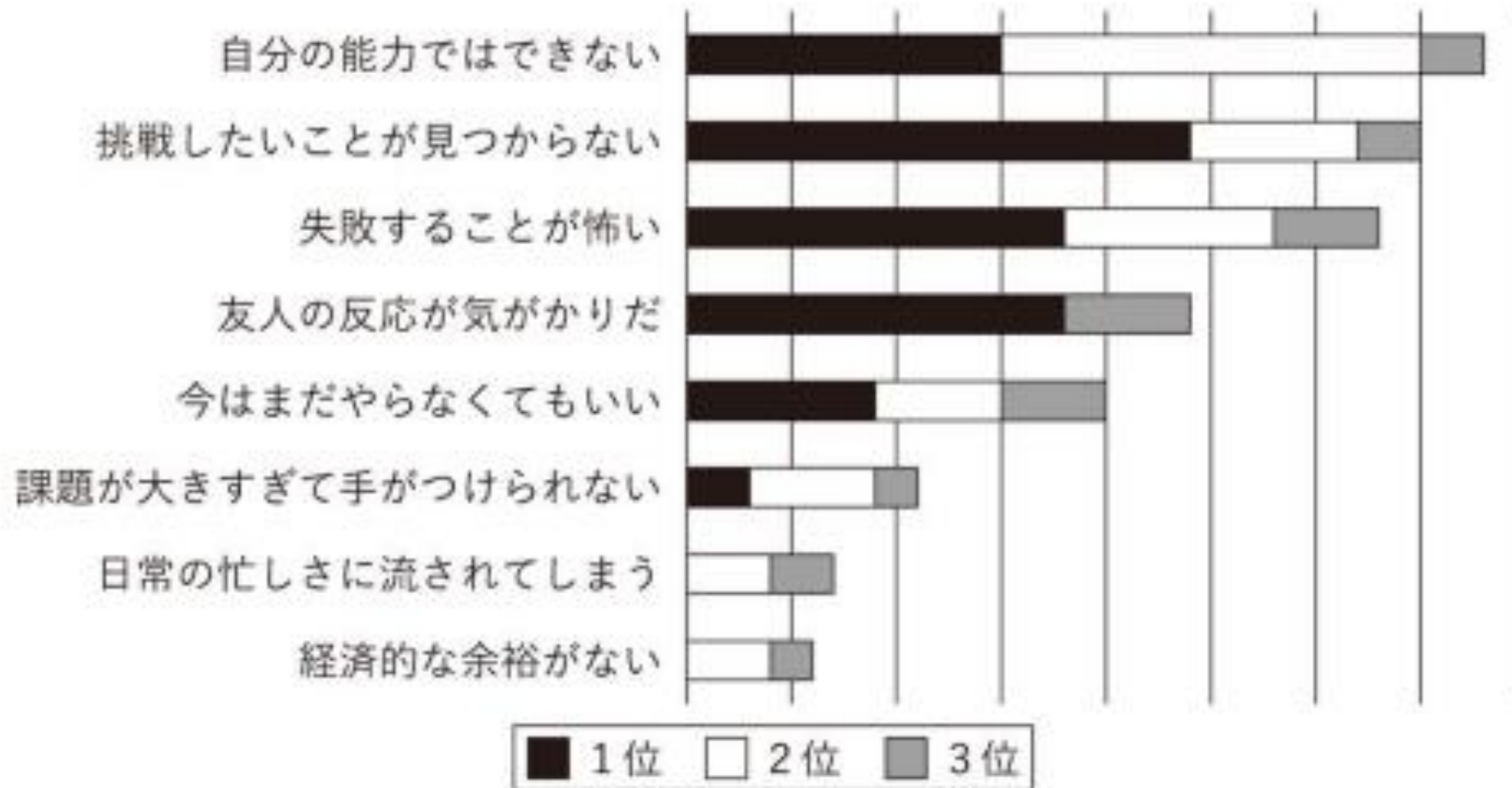
(N=104：2014～2019年)



図表7-3 学生のアントレプレナーシップの強さ

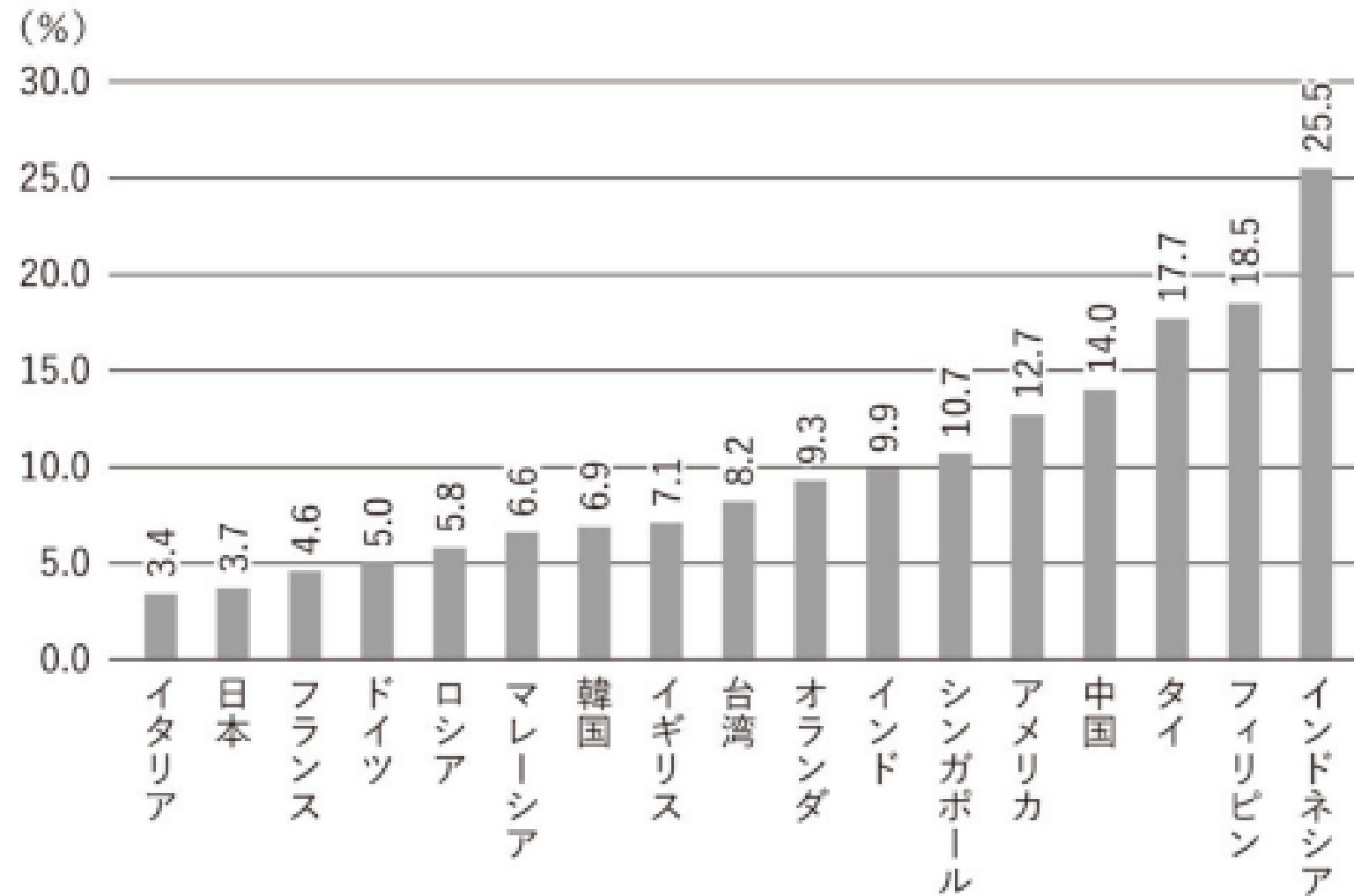


図表7-2 大学生・大学院生におけるチャレンジ精神の阻害要因



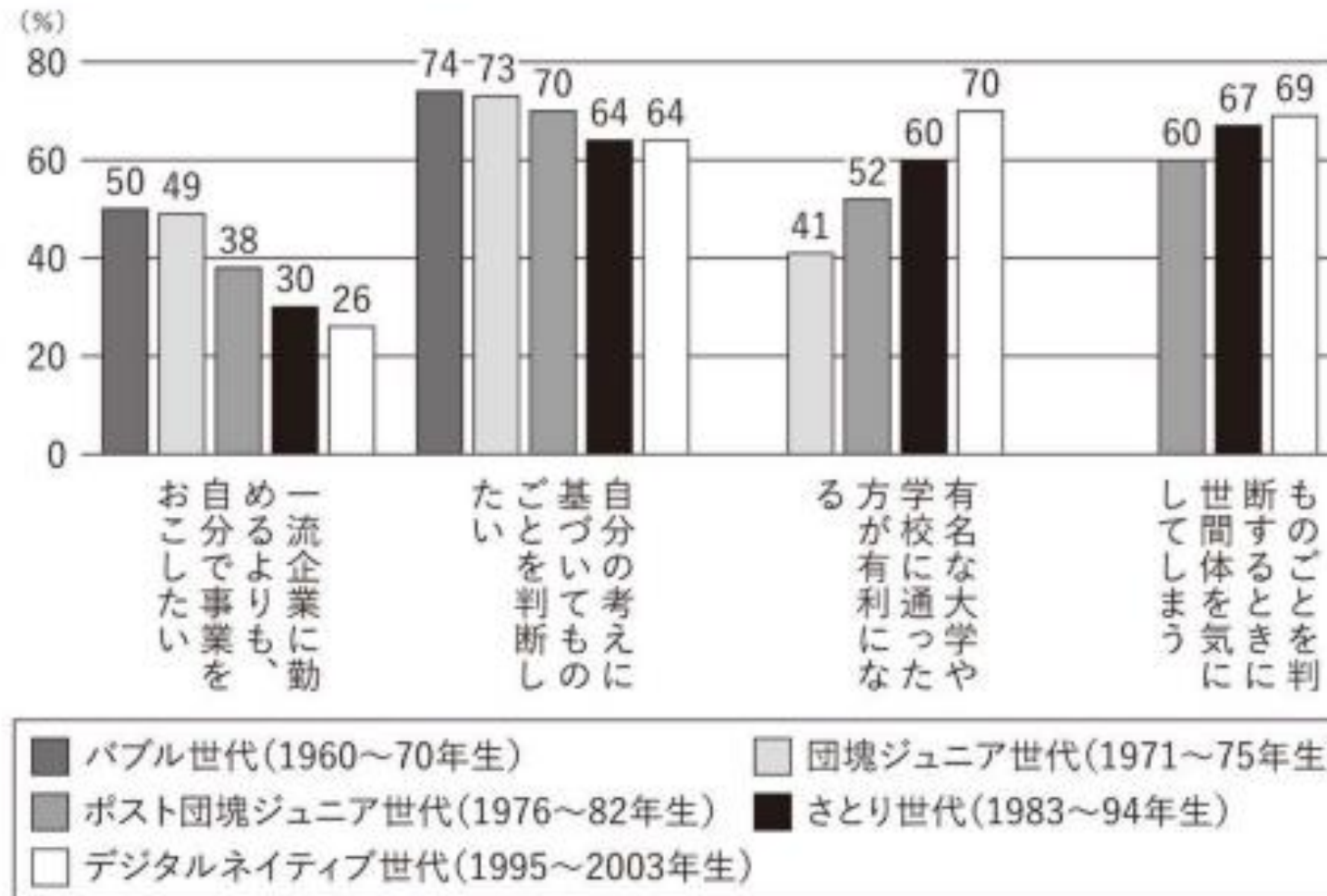
注：8つの選択肢の中から3つを選び順位を付けてもらった

図表7-6 世界各国のアントレプレナーシップ・レベル



出所：Global Entrepreneurship Monitor: GEM 2017/18 Global Report (2018)

図表8-3 「自分で事業をおこしたい」などの世代別スコア



出所：野村総合研究所『日本の消費者は何を考えているのか？』東洋経済新報社
(2019) より筆者抜粋

いい子症候群

- ・ 周りと仲良くでき、協調性がある
- ・ 一見、さわやかで若者らしさがある
- ・ 学校や職場などでは横並びが基本
- ・ 5人で順番を決めるときは3番目か4番目を狙う
- ・ 言われたことはやるけど、それ以上のことはやらない
- ・ 人の意見はよく聞くけど、自分の意見は言わない
- ・ 悪い報告はギリギリまでしない
- ・ 質問しない
- ・ タテのつながりを怖がり、ヨコの空気を大事にする
- ・ 授業や会議では後方で気配を消し、集団と化す
- ・ オンラインでも気配を消し、集団と化す
- ・ 自分を含むグループ全体に対する問いかけには反応しない
- ・ ルールには従う
- ・ 一番嫌いな役割はリーダー
- ・ 自己肯定感が低い
- ・ 競争が嫌い
- ・ 特にやりたいことはない

若者が変化を好まず、挑戦を避け、守り一辺倒の内向き志向となっているのは、若者が育ってきた日本社会がそうだからだ。

挑戦や変化が成長につながらず、チャレンジしても得られるものがないと若者が思っているのは、大人がそう見せつけてきたからだ。

自分が出来もしないし、やりもしないことを、若者に押し付けるなんて搾取以外の何物でもない。

本書の提言は1つ。 大人のあなたがやるべきだ。まずはあなたが挑戦するべきだ。 あなたが挑戦し、失敗し、そして復活するところを堂々と見せるべきだ。